

エンドタブ講習会開く

広島県鉄構工業会、46人

【広島】広島県鉄構工業会（理事長＝山本泰徳・スメントス社長）



講習会の様子

と日本エンドタブ協会は17日、広島市内のポリテクセンター広島で、建築鉄骨の溶接技術に関する「エンドタブ施工講習会」を実施、中国地区のファブリケーター従業員ら46人が参加した。

講習会では日本溶接技術センターの越田和憲氏が「建築鉄骨の溶接とエンドタブ」「鉄骨構造と溶接品質」をテーマに、溶接時の具体的な手法や注意点を話した。阪神大震災の写真も交え、溶接部の施工不良による損壊事例などを紹介した。

続いて三浦邦敏・エンジニアリングサービス会長は「建築鉄骨の品質保証と第三者検査」をテーマに、鉄骨製品の検査体制を充実させ、品質保証することの重要性を説いた。

津山巖・JFE商事鉄鋼建材顧問は「構造設計からみたエンドタ

ブの重要性」について、鉄の基本的な性質や、住宅など一般建築と官庁など公共建築の構造における差異を説明、構造物に負荷をかける実験をビデオで上映した。

同時に別室でエンド

タブ施工の溶接技能試験と溶接技能評価が行われた。最後に参加者らが施工した試験体についてビデオで上映、講師が技能評価の具体的なポイントなどを説明し、参加者らは熱心に聞き入っていた。